

短 報

## 園芸療法士の認知度と資格取得に関する調査

### A Survey on the Recognition and Certification of Horticultural Therapists

稲葉 敏樹<sup>1)</sup> 久利 彩子<sup>2)</sup> 水野 貴子<sup>3)</sup> 珠数 美穂<sup>4)</sup>

**要 約**：専門学校卒業生が在学中取得できなかった「全国大学実務教育協会認定園芸療法士」の認知度を調べることを目的に、河崎医療技術専門学校、作業療法学科卒業生のうち、現住所がわかっている169名について、園芸療法士に関するアンケート調査を行った。回答率は30.8% (52/169)であった。内訳は、男性、20名、女性、31名、不明、1名であった。経験年数は8.32年 (3～13年)、経験年数不明(無記入)2名であった。アンケート結果より、精神科領域などで実際に園芸療法を用いているため、園芸療法士という名称の認知度は高いが、資格が複数ある等の具体的内容の認知度は高くなく、本学で、全国大学実務教育協会認定「園芸療法士」資格を取得できることを卒業生には周知されていないことが明らかとなった。一方で、園芸療法講座への参加希望は60%以上で、卒後研修のメニューとして検討に値すると思われる。

**キーワード**：園芸療法士、認知度、資格取得

#### I. はじめに

本学は、平成9年4月、河崎医療技術専門学校(理学療法学科・作業療法学科)として開校した。平成18年4月、大阪河崎リハビリテーション大学開学(理学療法専攻、作業療法専攻、言語聴覚専攻)、平成19年2月、全国大学実務教育協会より「園芸療法士」の教育課程認定を受け、園芸療法士の資格取得が可能となった。専門学校時代は、在学中に全国大学実務教育協会認定園芸療法士の資格取得することはできな

かった。

日本における園芸療法士は、現在、「兵庫県園芸療法士」(2002年より、兵庫県立淡路景観園芸学校「園芸療法課程」が開設。兵庫県知事が認定。)と「登録園芸療法士」(日本園芸療法学会認定。2006年より。)と、本学で取得できる「全国大学実務教育協会認定園芸療法士」の3つに資格が存在する。「全国大学実務教育協会認定園芸療法士」(以下断りがない限り「園芸療法士」は「全国大学実務教育協会認定園芸療法士」を指すものとする)は、心・身体・園芸の相互関係、園芸にもちいる植物、土壌づくり～繁殖～収穫のしかた、園芸機材の取り扱いなど、リハビリテーションとしての園芸に関する知識・技術を習得し、障害者や高齢者の心身の発達・回復をサポートできる人材を養成する

Toshiki Inaba  
大阪河崎リハビリテーション大学  
リハビリテーション学部 言語聴覚専攻  
E-mail : inabat@kawasakigakuen.ac.jp

- 1) 大阪河崎リハビリテーション大学 言語聴覚専攻
- 2) 大阪河崎リハビリテーション大学 理学療法専攻
- 3) 大阪河崎リハビリテーション大学 作業療法専攻
- 4) 大阪河崎リハビリテーション大学 非常勤講師

ことを目的とし、リハビリテーションの視点で園芸療法を捉えている。それに対し、「兵庫県園芸療法士」「登録園芸療法士」は、園芸の視点から園芸療法を捉えている点で異なる。

園芸療法士の資格が複数存在することは、情報の一元化ができず、園芸療法及び園芸療法士の認知度は高くないと考えられる。

## Ⅱ. 目的

本学専門学校卒業の作業療法士について、「全国大学実務教育協会認定園芸療法士」の認知度及び本学園芸療法士資格取得講座開設の認知度の調査、園芸療法士資格取得需要の有無を調べることが目的とした。

## Ⅲ. 方法

河崎医療技術専門学校、作業療法学科卒業生に対し、郵送によるアンケート調査を行った。個人情報の記入は性別と経験年数のみとし、アンケート用紙の返送を持って、趣旨を理解し、同意したものとみなした。本研究における倫理的配慮は、ヘルシンキ宣言及び厚生労働省による臨床研究に関する倫理指針に基づき、大阪河崎リハビリテーション大学研究倫理審査委員会の承認を受けて実施した（承認番号OKRU25-A01）。

アンケート内容は、性別、作業療法士の経験

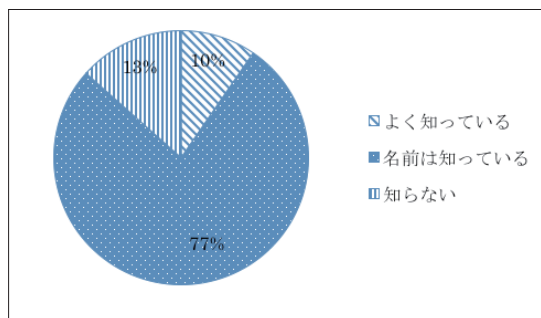


図1 園芸療法士という資格があることを

年数、園芸療法士の認知度、本学で園芸療法士資格取得できることの認知度、公開講座参加の意思、参加の条件（開催日時、費用など）とした。

## Ⅳ. 結果

河崎医療技術専門学校、作業療法学科卒業生のうち、現住所がわかっている169名について、アンケートを送付した。

回答率は30.8%（52/169）。内訳は、男性、20名、女性、31名、不明、1名であった。経験年数は8.32年（3～13年）、経験年数不明（無記入）2名であった。

アンケート結果は、質問①「園芸療法士という資格があることを」、よく知っている10%（5名）、名前は知っている77%（40名）、知らない13%（7名）であった（図1）。

質問②「日本では園芸療法士の資格が複数あることを」、よく知っている2%（1名）、複数あるのは知っているが、いくつあるかは知らない12%（6名）、知らない86%（45名）であった（図2）。

質問③「本学で、全国大学実務教育協会認定「園芸療法士」資格を取得できることを」、知っている52%（27名）、知らない48%（25名）であった（図3）。

質問④「本学で「園芸療法入門」（仮題）といった、無料の公開講座を開くとしたら」、是非参加したい13%（7名）、できれば参加した

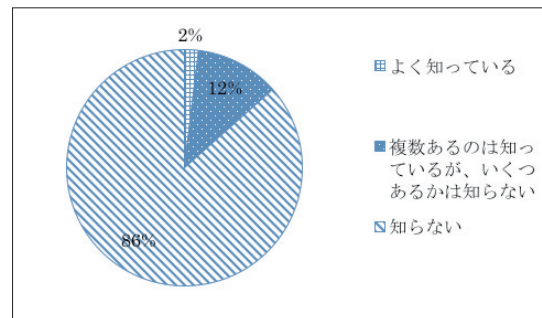


図2 日本では園芸療法士の資格が複数あることを

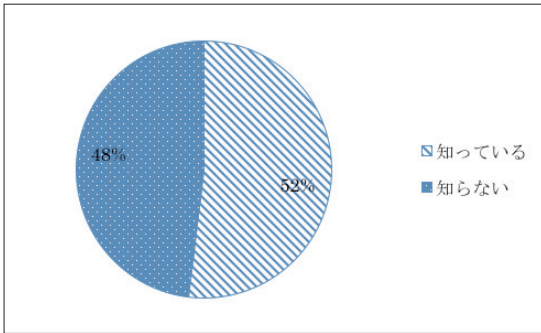


図3 本学で全国大学実務教育協会認定「園芸療法士」資格を取得できることを

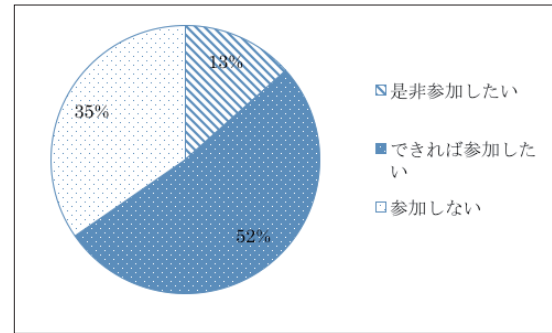


図4 本学で「園芸療法入門」(仮題)といった、無料の公開講座を開くとしたら

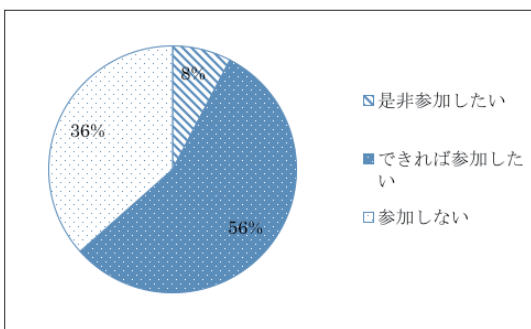


図5 本学で全国大学実務教育認定園芸療法士資格取得のための公開講座「園芸療法講座」(有料)を開くとしたら

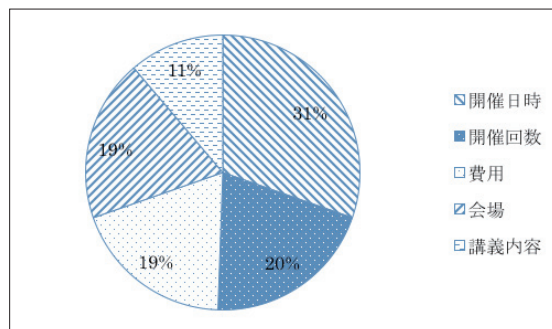


図6 参加条件

い52% (27名)、参加しない35% (18名)であった(図4)。

質問⑤「本学で全国大学実務教育認定園芸療法士資格取得のための公開講座「園芸療法講座」(有料)を開くとしたら」、是非参加したい8% (4名)、できれば参加したい(条件が合えば参加したい)56% (29名)、参加しない36% (19名)であった(図5)。

質問⑥「参加の条件となる項目(複数回答可)」、開催日時(曜日、時間)31% (27名)、開催回数20% (18名)、費用19% (17名)、会場19% (17名)、講義内容11% (10名)、講師、その他は0名であった(図6)。

## V. まとめ

1. 精神科領域などで実際に園芸療法を用いているため、園芸療法士という名称の認知度は高いが、資格が複数ある等の具体的内容の認知度は高くない。
2. 本学で、全国大学実務教育協会認定「園芸療法士」資格を取得できることを卒業生には周知されていない。
3. 園芸療法講座への参加希望は60%以上あり、今後、卒後研修のメニューとして検討に値すると思われる。

### [参考・引用文献]

1. 一般財団法人 全国大学実務教育協会ホームページ <http://www.jaucb.gr.jp> (平成25年4月時点での資料)

2. 日本園芸療法学会ホームページ <http://www.jht-assc.jp/certification.html> (平成25年4月時点での資料)
3. 兵庫県立淡路景観園芸学校ホームページ <http://www.awaji.ac.jp/> (平成25年4月時点での資料)